

生ごみ処理容器購入助成制度利用者に対するアンケート結果について

平成26年12月
資源循環推進課

今後の生ごみ処理容器購入助成制度のあり方や生ごみの減量化・資源化促進施策の検討に資するため、平成25年度に助成制度を利用して生ごみ処理容器を購入した世帯を対象に、購入後の使用状況等に関するアンケートを実施した。

1 調査対象

平成25年度に助成制度を利用し、生ごみ処理容器を購入した世帯
(コンポスト化容器(密閉式容器含む)36世帯、電動式生ごみ処理機89世帯 合計125世帯)

2 調査時期

平成26年8～9月(回答期限9月30日)

3 調査方法

アンケート用紙に無記名で回答記入の方法による
(アンケート用紙は郵送により配布し、記入後、返信用封筒にて返送してもらい回収)

4 回答状況

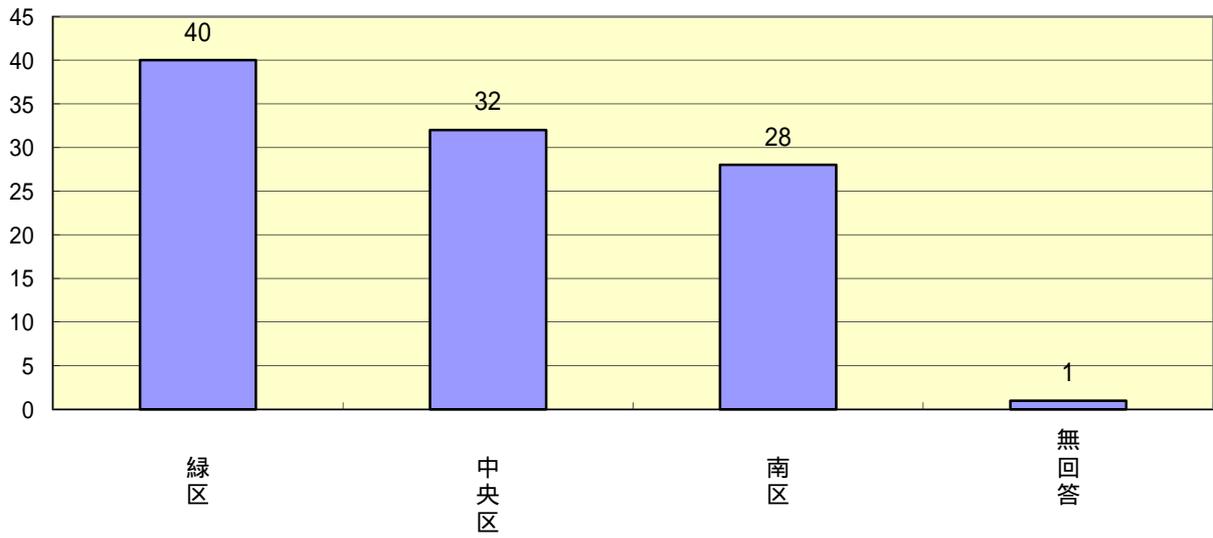
回答件数：101件
回答率：80.8%

5 調査結果の総括

今回のアンケート結果から、生ごみ処理容器購入助成制度が容器の購入に大きな動機付けとなっていることから、ごみの減量化、資源化に概ね有効であることがわかった。
制度に対する意見としては、現行制度の継続を求める意見が多くある一方、もっと周知すべきとする意見も多く、今後の普及啓発のための周知の強化が必要であることがわかった。
また、周知する内容については、生ごみの堆肥化だけでなく、「家庭やごみ・資源集積場所の悪臭・カラス等対策への効果があることをもっとPRする」などの意見が寄せられた。

【問1】あなたのお住まいは何区ですか。

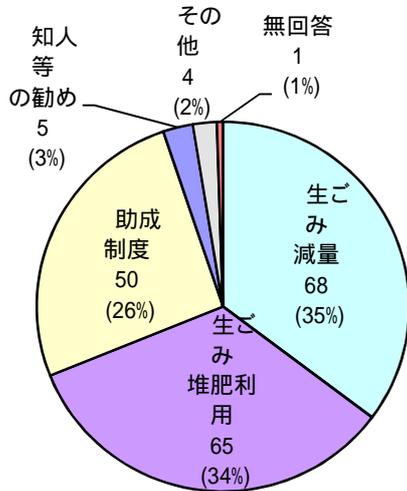
緑区
中央区
南区



購入した世帯の住居は、緑区が40%、中央区が32%、南区が28%となっている。

【問4】購入した理由は何ですか。〔複数回答可〕

- 生ごみを減量するため
- 生ごみ堆肥の利用を考えて
- 助成制度があることを知ったから
- 知人や販売店に勧められて
- その他（ ）



購入した理由は、「生ごみを減量するため」が35%、「生ごみ堆肥の利用を考えて」が34%と多かった。

また、「助成制度があることを知ったから」が26%と高い割合となっており、助成制度も購入の大きな要因となっている。

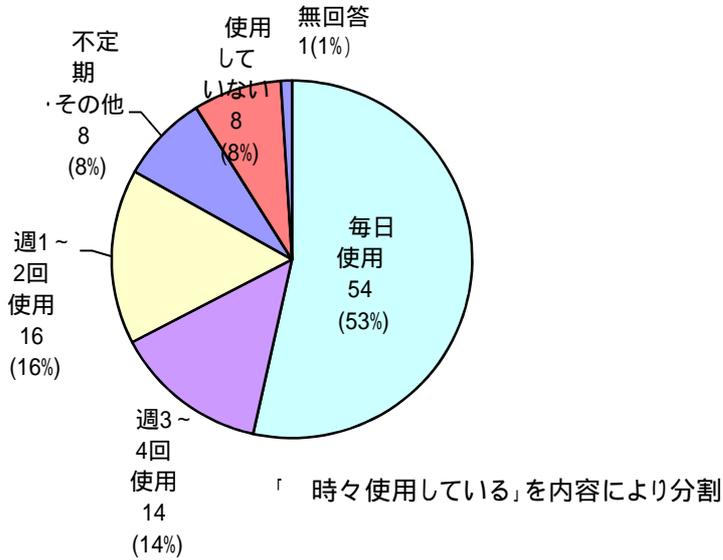
【問6】現在、生ごみ処理容器を使用していますか。

毎日使用している

時々使用している（週に 回程度） 使用回数もご記入ください。

使用していない

と回答された方は【問10】にお進みください。



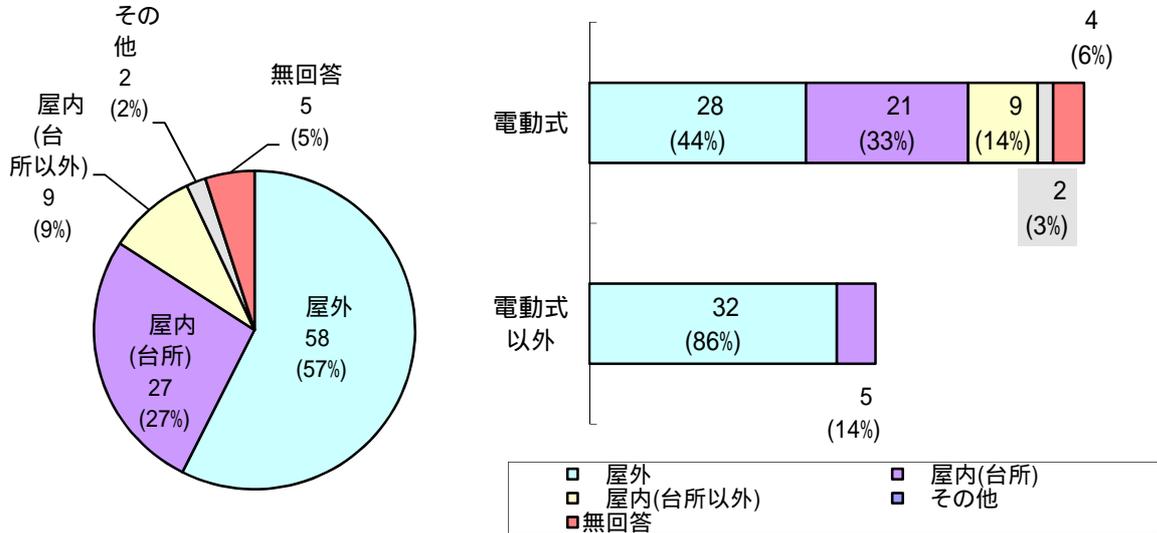
使用状況では「毎日使用している」が半数を超え、「時々使用している」までを含めると、概ね9割の世帯が定期的に使用していた。

「使用していない」8%の容器の種別は、電動式生ごみ処理機(乾燥型)6件、電動式生ごみ処理機(バイオ型)1件、コンポスト化容器1件であった。

(【問6】で、 と回答された方にお聞きします。)

【問7】設置場所はどこですか。

- 屋外に設置
- 屋内(台所)に設置
- 屋内(台所以外)に設置
- その他()



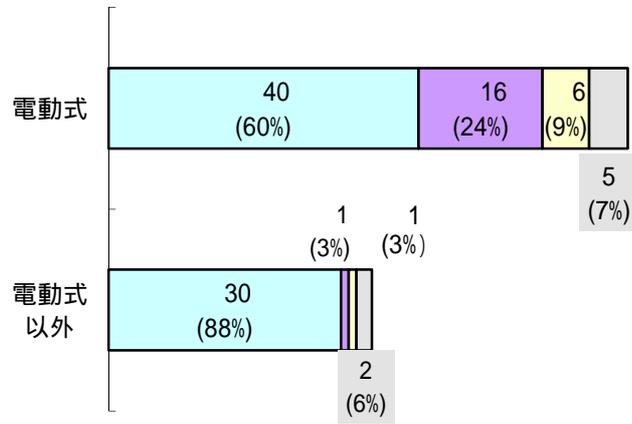
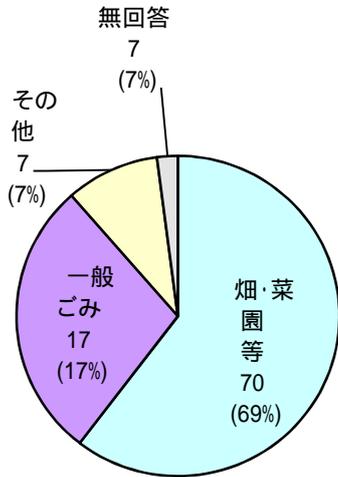
電動式生ごみ処理機(乾燥型、バイオ型)の設置場所では、屋内(うち台所は約7割)と屋外が約半数ずつであった。

電動式以外(コンポスト化容器、密閉式容器)では、約9割が屋外に設置されている。

(【問6】で、と回答された方にお聞きします。)

【問8】生ごみ処理容器で処理された物の利用方法は、主にどうしていますか。

- 畑や家庭菜園、庭木等の肥料として利用している
- 一般ごみとして他のごみと一緒に排出している
- その他



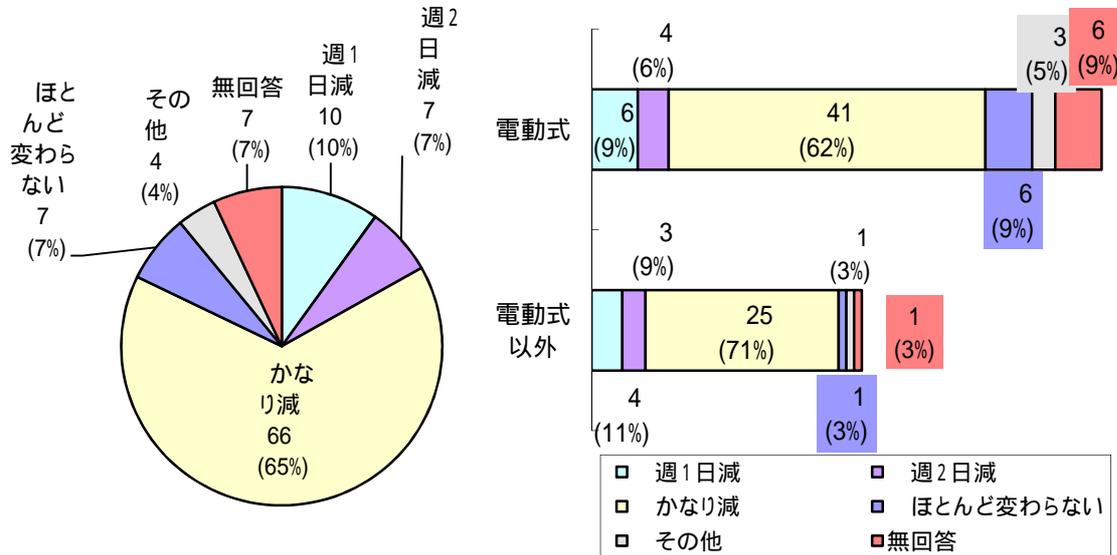
処理された物の利用方法としては、肥料として使用している世帯が約7割となっており、有効に活用が図られていた。

電動式生ごみ処理機では、24%の世帯で一般ごみとして排出されていた。

(【問6】で、 と回答された方にお聞きします。)

【問9】生ごみ処理容器を設置して、一般ごみを出す量は変化しましたか。

- 一般ごみを出す日が週1日減った
- 一般ごみを出す日が週2日減った
- 出す回数は変わらないが、一般ごみの量がかなり減った
- ほとんど変化しなかった
- その他

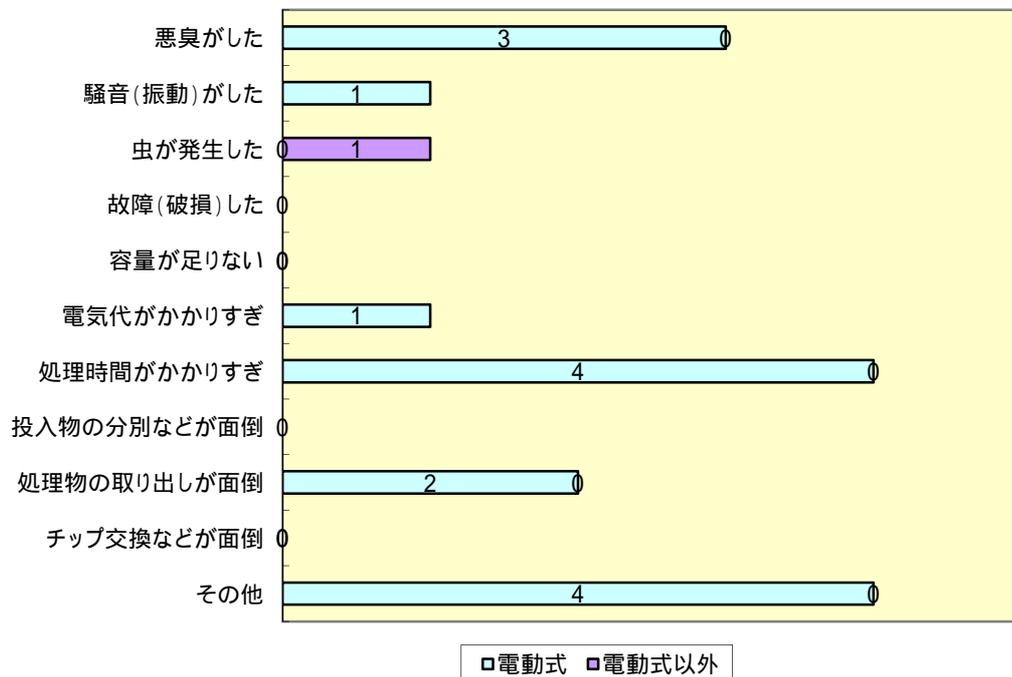


生ごみ量の変化では、「一般ごみを出す日が1～2日減った」「出す回数は変わらないが、一般ごみの量がかなり減った」とする回答が約8割と、生ごみ処理容器の使用によって減量効果を実感している世帯が多かった。なお、その他として、「もともと生ごみは一切一般ごみとして出さず、全量堆肥として利用している」や、「電動式バイオ型だとバイオ材に分解されるので処理物が出ない」という回答もあった。

(問6で「使用していない」と回答された方にお聞きします。)

【問10】現在、使用されていない理由は何ですか。〔複数回答可〕

- 悪臭がした
- 騒音(振動)がした
- 虫が発生した
- 故障(破損)した
- 容量が足りない
- 電気代がかかりすぎ
- 処理時間がかかりすぎ
- 投入する物の分別などが面倒
- 処理された物の取り出しが面倒
- チップの交換などが面倒
- その他()



使用しなくなった理由は、電動式生ごみ処理機(乾燥型、バイオ型)で「処理時間がかかりすぎ」が最も多く4件で、「乾燥時間3時間以上はかかりすぎ」との意見があった。

次いで、電動式生ごみ処理機(乾燥型)では、「悪臭がした」が3件、「処理物の取り出しが面倒」2件、「騒音(振動)がした」1件、「電気代がかかりすぎ」1件であった。

電動式以外(コンポスト化容器)では「虫が発生した」1件であった。

(問6で「使用していない」と回答された8件の容器の種別は、電動式生ごみ処理機(乾燥型)6件、電動式生ごみ処理機(バイオ型)1件、コンポスト化容器1件。)

(【問6】で「使用していない」と回答された方にお聞きします。)

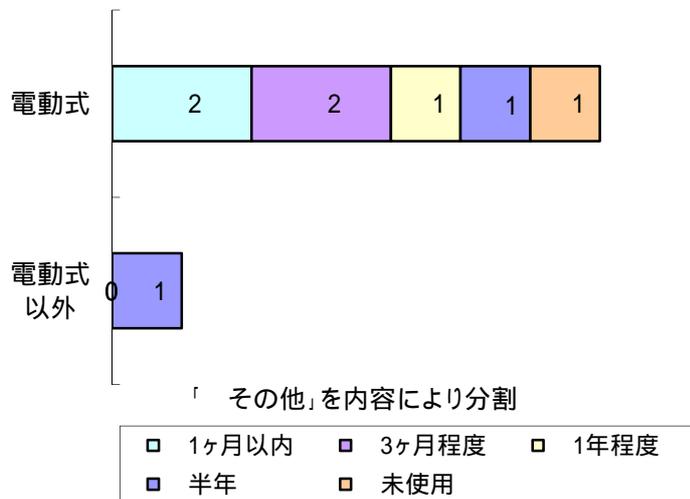
【問11】どのくらい使用されておりましたか。

1ヶ月以内

3ヶ月程度

1年程度

その他()



不使用となるまでの期間は、電動式生ごみ処理機（乾燥型、バイオ型）では1ヶ月以内、3ヶ月程度が最も多かった。電動式以外（コンポスト化容器）では半年程度との回答であった。

(以下の設問は、皆さんにお聞きします。)

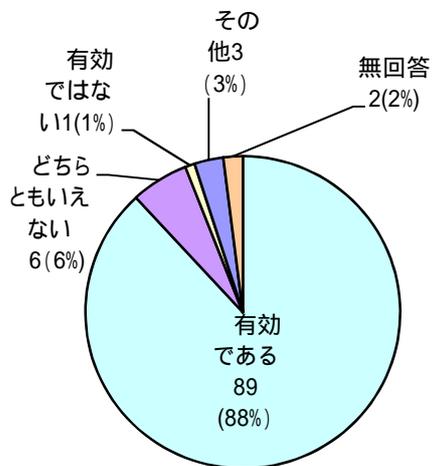
【問 1 2】生ごみ処理容器購入助成制度は、ごみの減量化、資源化に有効だと思いますか。

有効である

どちらともいえない

有効ではない

その他()



生ごみ処理容器購入助成制度については、「有効である」が約9割で最も多かった。

次いで「どちらともいえない」6%、「有効ではない」1%であった。

また、「その他」3%として、「生ごみの減量化だけでなく、生ごみを乾燥することにより、におい・虫対策にも有効である」との意見もあった。

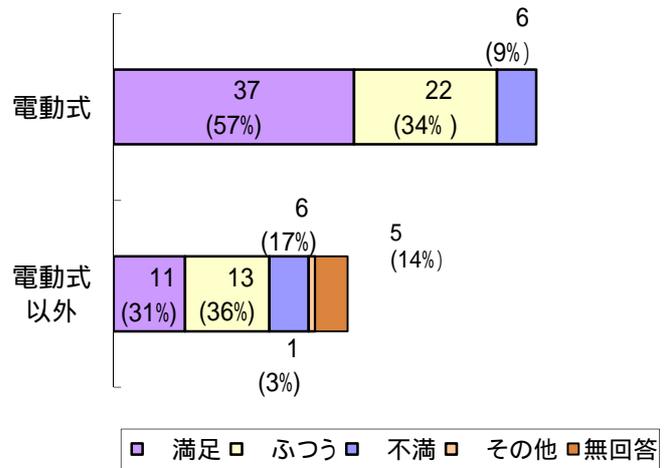
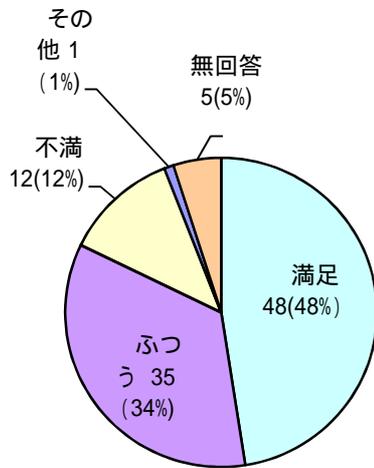
【問13】生ごみ処理容器購入助成制度の補助額について、満足されましたか。

満足

ふつう

不満

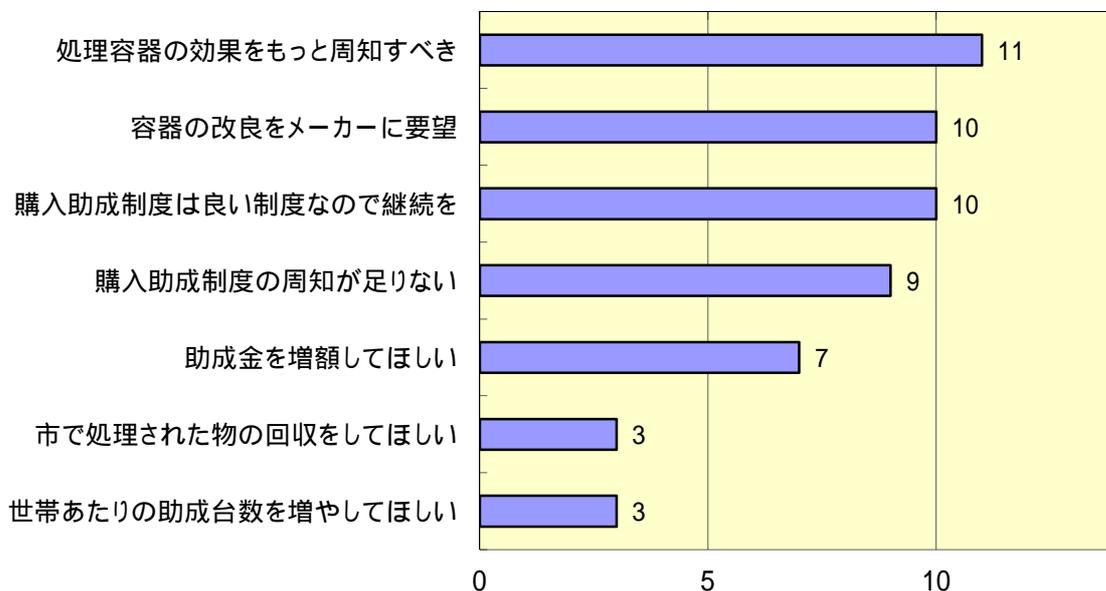
その他 ()



助成制度の補助額については、「満足」が48%、「ふつう」が34%と合わせて約8割が現行の補助額を評価する意見であった。「不満」との意見は12%であった。

【問14】生ごみの減量化・資源化や生ごみ処理容器購入助成制度について、ご意見等がありましたら、ご自由にお書きください。

【主な意見等】



購入助成制度については、「良い制度なので継続してほしい」と制度を評価する意見がある一方、「処理容器の効果をもっと周知すべき」「制度の周知が足りない」とする意見も多く、今後の普及啓発の必要が求められている。

周知する内容については、「庭がなく堆肥化できない人にも生ごみがなくなると集積所の悪臭・カラス・猫対策に効果がある」「家庭でのにおい対策にもなることをもっとPR」「容器の種類ごとの特徴を詳細に周知する」などの意見が寄せられた。

また、「容器の改良をメーカーに要望してほしい」という意見も多く、内容については、「容器の種類が少ない」「電動式生ごみ処理機の価格を安く」「電気代がかからない機器の改良を。電気代がかかるとエコとは言えない」との意見が寄せられた。

このほか、「助成金を増額してほしい」「世帯あたりの助成台数を増やしてほしい」との意見や、「市で処理された物を回収をしてほしい」として、「堆肥を買い取ってほしい」「市で生ごみを資源として回収（堆肥化）してほしい」などの意見があった。